

最優秀作品 短歌の部

(十一首)

一般の部

選評 あかとき短歌会（石原比朗志）

【岡崎市議会議長賞】

岡崎市中島町

黒野美由紀

悠紀の地に二代続きし和菓子屋の斎田もなか母の手に置く

大正四年に「悠紀の里」とされ、御田植えが行われた。歴史をふまえ「悠紀斎田」のことはをうまく歌のなかにおさめている。地域の和菓子も詠みこみ、「斎田もなか母の手に置く」の下の句に穏やかな場面が浮かんできます。

【岡崎市観光協会賞】

岡崎市法性寺町

近藤 和子

つれ合いの背中洗いし指先は土と同じく黒くひかりて

「つれ合い」という言葉がいい。何十年ともに人生を歩んできた相手への思いやりがこもる。土と同じく黒く光る指先は、ともに農業に携わってきたことが表されています。

小中学校の部

【岡崎市長賞】

六ツ美中学校三年生

犬塚 麻央

床揺れて体起こして窓見たら夕日と光るドクタイエロー

六ツ美中の校舎からは新幹線のドクタイエローを見ることができる。上の句でリズムよく場面を詠み、下の句で感動した夕日とドクタイエローを詠まれている。六ツ美ならではのことですね。

【岡崎市議会議長賞】

六ツ美西部小学校六年生

長瀬 咲愛

雨傘を日傘に変えた二の腕の光まみれの夏のはじまり

夏になり、日差しが強さを「二の腕の光まみれの」ととらえているのが秀逸。結句から上の句につなげて「夏のはじまり雨傘を日傘に変えた」と読むこともできます。二句切れの歌と読んだ。

【岡崎市教育委員会賞】

六ツ美北中学校一年生

市川 湊

つかれはて日差しかきわけ進んでくぼくの背泳ぎボロ船のよう

水泳部での練習でしょうか。疲れて浮いたまま、ゆつくりキックだけですんでいる様子を想像しました。「ぼくの背泳ぎボロ船のよう」に実感がこもります。

【岡崎市観光協会賞】

六ツ美中部小学校六年生

坂部 春菜

なの花の花言葉から救われて毎日笑顔いつもしあわせ

菜の花の花言葉は、「小さな幸せ」「元氣いっぱい」「快活・活発」です。落ち込んで菜の花を見ていたとき、誰から菜の花の花言葉を知らされて、元氣づけられたのでしょうか。菜の花は明るい花です。

【岡崎市六ツ美商工会賞】

六ツ美北中学校一年生

前田 恵麻

夕焼けを一面うつす水たまり空を飛んだとわらいあう声

水たまりが水鏡となり、夕焼けが映っている。それをひよいと跳び越えた。「今、空を飛んじやったよ。」友だちといっしょに帰る道での楽しく明るい青春の場面が思われます。

【中日新聞社賞】

六ツ美中学校二年生

鈴木 優奈

菜の花が風にあおられゆらゆらと光の加減一つの波に

一面の菜の花が風に揺れている様子を「光の加減」と光のたし算・ひき算という言葉で表現しているところがいい。それが一つの波となって渡っていく。美しい景色です。

【ミクスネットワーク賞】

六ツ美西部小学校六年生

川澄 結愛

水しぶきとびちる友の顔めがけ追いかけてまくりうつ水でっぽう

暑い夏にみんなでこんな遊びをしているのですね。「水しぶきとびちる」「追いかけてまわりうつ」という言葉で「水でっぽう」で遊ぶ様子がよくわかります。歌声も聞こえてきます。

【東海愛知新聞社賞】

六ツ美北部小学校六年生

宮木 寛史

あったかいほんわかとしたおみそ汁やっぱりおいしい六ツ美のねぎは

ねぎは法性寺ねぎでしょうか。ねぎのはいったお味噌汁を「あったかいほんわかとした」とやわらかい言葉で表現しています。おいしさのポイントはやっぱり「六ツ美のねぎ」ですね。

【学区社教委員会賞】

六ツ美南部小学校六年生

安達 貴一

校庭にひびく校歌よ風にのり羽角の山にとどけよひびけ

羽角山の頂上に登るとふるさと六ツ美が見えると詠んだ歌もありました。校庭からながめる羽角山の姿は、ふるさとの景色そのものです。みんなして校歌を歌っている姿と心が伝わってきます。